

はちまんたい

議会だより

No. 25
2011年(平成23年)
11月17日



主な内容

- 9月定例会……………2ページ～
- 決算特別委員会………4ページ～
- 一般質問……………8ページ～
(詳しい目次はフページ)

輝け、子どもたち⑥ -田山小-

9月29日、田山小学校（藤原哲嗣校長、児童39人）で、そば刈り体験が行われました。当日は、1、2年生16人が、地域の老人クラブの皆さん18人に手伝ってもらいながら、学校近くのそば畑で刈り取りに挑戦。刈り取ったそばは、乾燥、脱穀後、12月にそば作りを行い、みんなで一緒に食べることにしています。それまで待ち遠しいですね。



一般質問

質問した事項

- ・岩手山をキーワードとしたまちづくりについて
- ・新学習指導要領の取り組み状況について
- ・地熱発電開発と事業化の見通しについて

渡辺義光議員

岩手山を生かしたまちづくりを

市長 市の誇る観光資源と認識し議論



岩手山に関する資源を利用したまちづくりについて
提言がありました(7月1日の岩手山開き・山頂付近)

渡辺議員 市内には、平笠裸参り、岩手山神社山伏神楽、土沢の淨屋といった行事などの市指定無形文化財があり、岩手森や地酒・鶯の尾、昔話、詩歌、民謡など岩手山に関する資源が県内市町村で最も多く存在している。岩手山関連の資源を利活用したまちづくり、観光振興の手法について伺う。

市長 岩手山は県内外に知られ、市の誇れる資源と認識し、観光振興を進める上で利活用は重要と考えている。観光振興計画策定に当たっては、十分に議論していきたい。「岩手山の日」制定については、全国で山の日制定や山岳関係団体の活動がある。県、管内町村と意見交換しながら、対応

渡辺議員 奥の宮は十和田八幡平国立公園内にあり、信仰対象の神社で、行政としての働きかけは難しいと思う。「岩手山」などの既刊書籍や資料を十分活用願いたい。

教育長 奥の宮は十和田八幡平国立公園内にあり、信頼が全面実施され、中学校は来年度から、新学習指導要領が全面実施され、中学校は保健体育で武道の男女必修化、わが国の伝統文化の充実が定められた。取り組み状況と柔道着などの道具類の公費負担の考え方を伺う。

教育長 各学校において新教育課程が適切に実施されるよう、学校訪問や研修会などで支援していきたい。武道の種目は、基本的に柔道、剣道、相撲の3種目か

していきたい。

渡辺議員 奥の宮周辺の石造物が崩壊し、荒廃している。復興、整理を呼び掛けはどうか。また、岩手山関連の自然、歴史、文化などの総合調査の考えはないか。

市長 市では、御在所地域で地熱発電事業化の調査を実施した。同地域には2万から3万キロワットの資源量があると想定され、事業化の可能性が高いものと判断し、民間企業3社と協定を締結、地熱発電事業化に向けて検討している。再生可能エネルギーによる電力の固定価格や買い取り期間は審議中だが、今後も国の動向を注視し、事業化へ向けた可能性を検討したい。

一般質問

質問した事項

- ・市総合計画後期計画について（農地基盤整備の推進などについて）

北口和男議員



大更市街地周辺の土側溝排水路。今年度中に測量設計を実施し、その後、整備を図る予定です（大更保育所裏）

北口議員 生産基盤整備の推進においては、後期計画、長期計画にも必要と考えられる水田、畑地未整備について、西根、松尾、安代の3地区の現状（何箇所、面積）と今後の整備計画の有無、事業費はいくらか伺う。

市長 水田関連では、西根地区が3220haに対し0.1ha、松尾地区が13haに対し0.4ha、安代地区が1120haに対し1.3ha、松尾地区が1120haに対し1.3ha、安代地区が1610haに対し0.3haの整備率となっている。

現在、市で計画として登載している事業は、8地区、239haの水田区画整理で、概算事業費は58億9500万円である。事業の実施には、受益者のほぼ100%の同意が必要である。

北口議員 水田基盤整備において、用排水路未整備（何箇所、何メートル）、3地区の現状と今後の整備計画、事業費を伺う。

市長 現状については、管理主体が当市、土地改良区、県と分かれています。用排水路の箇所、延長が相当数に上ることから、具体的な数値については、調査不能な状況である。素掘り側溝が相当箇所ある。

北口議員 以前「市内観光道路2カ所に名称を付けたらどうか」と一般質問で伺ったところ、答弁は「実施に向け、関係団体と検討、協議したい」とのことだったが、その後、進捗状況はどうか。

市長 県および市の道路管理者担当者と協議した結果、通称であれば問題ない旨の回答を得た。今後、観光関係者などと協議を重ねていきたい。

洋式トイレ整備計画は

北口議員 市公共施設のトイレ整備について、障害者用トイレの整備計画は何箇所か。また、洋式トイレ改修計画は何箇所か。事業費はいくらか伺う。

市長 障害者トイレ整備計画は、今年度2カ所、来年度2カ所で、事業費は4274万円、洋式トイレ改修

計画は、今年度、本庁舎と安代総合支所を予定しており、事業費は1852万円である。学校施設では、西根中学校ほか3校で今年度から28年度にかけて校舎改修に併せて洋式化し、多目的トイレの設置も検討している。事業費は未定である。

北口議員 以前「市内観光道路2カ所に名称を付けたらどうか」と一般質問で伺ったところ、答弁は「実施に向け、関係団体と検討、協議したい」とのことだったが、その後、進捗状況はどうか。

市長 県および市の道路管理者担当者と協議した結果、通称であれば問題ない旨の回答を得た。今後、観光関係者などと協議を重ねていきたい。

補助事業は積極的に導入する



農地基盤整備の推進は計画的に

計画は、今年度、本庁舎と安代総合支所を予定しており、事業費は1852万円である。学校施設では、西根中学校ほか3校で今年度から28年度にかけて校舎改修に併せて洋式化し、多目的トイレの設置も検討している。事業費は未定である。



一般質問

質問した事項

- ・防災について
 - ・自治集会所について
 - ・学校、公園などの遊具について

伊藤一彦議員



一般質問

質問した事項

- #### ・畜産振興について

小野寺 昭一議員

住宅火災報知機の設置状況は

市長 → 6月1日現在 61.9%の設置率



火災の発生を知らせる住宅用火災警報器。設置率100%を目指し未設置のお宅は早めに設置しましょう。

伊藤議員 就寝中の火災発生で、多くの高齢者が逃げ遅れて災難に至っている。今年6月1日に住宅火災報知機の設置義務化が施行されたが、本市の設置状況を伺う。また、設置未確認への対応と昨年度、火災報知機設置費助成金制度を創設したが、進捗状況を伺う。

市長 住宅用火災警報器の設置率については、消防団、婦人消防協力隊の家庭訪問

や啓発活動などによつて、61・9^{パーセント}となつた。今後、未確認のものに対するは、関係機関との連携で早期に全世帯設置を目指す。設置費補助金の状況は、独り暮らし老人、高齢者のみ、障害者などの2050世帯を対象に、広報、回覧、未設置の対象者へのダイレクトメールなどで周知、奨励に努め、438世帯に178万9880円を助成した。

障害者世帯は、対象62世帯のうち11世帯に4万810円を助成した。

自治集会所のあり方 検討は進んでいるか

今後のあり方の見解を伺う。また、集会所建設工事費補助金の上限60万円の引き上げの検討についても伺う。

市長 集会所の今後のあり方については、組織機構のあり方や建設費補助金の見直しなど、幅広く行革推進委員会で議論をしている最中である。改修を行はず老朽化が進んでいる集会所もあり、補助金の限度額の大幅な引き上げで住民負担の

今後のあり方の見解を伺う。また、集会所建設工事費補助金の上限60万円の引き上げの検討についても伺う。

市長 集会所の今後のあり方については、組織機構の方や建設費補助金の見直しなど、幅広く行革推進委員会で議論をしている最中である。改修を行はず老朽化が進んでいる集会所もあり、補助金の限度額の大幅な引き上げで住民負担の

農村公園などの遊具 今後新設する考えは

伊藤議員 松尾地区の湯沢
集会所、落合集会所は老朽
化が激しく、世帯員の増加、路
地の問題があるほか、路
上駐車し、使用している。
地域も高齢化によりコミュニ
ティが薄れる中で地区集
会所は重要なことから、

障害者世帯は、対象62世帯のうち11世帯に4万810円を助成した。

一級河川「長川」の災害予備対策検討を

伊藤議員 松尾・時森地区の長川は、昨年暮れの大雪、先の大震災で多くの倒木および土砂が滑り落ちている。民間だけでは対応できないと思うが、今後の危険性についての見解を伺う。

市長 集会所の今後の方については、組織機構のあり方や建設費補助金の見直しなど、幅広く行革推進委員会で議論をしている最中である。改修を行えず老朽化が進んでいる集会所もあり、補助金の限度額の大幅な引き上げで住民負担の今後のあり方の見解を伺う。また、集会所建設工事費補助金の上限60万円の引き上げの検討についても伺う。

教育長 今年度も6月に全学校を定期点検した。使用に耐えられないものはなかつたが、部分的に手を加えなければならぬものがあつた。修繕しながら、引き続き安全に努める。

15 第25号 平成23年11月 はちまたい 議会だより

小野寺議員 農業、畜産については、市が認定している認定農業者数は個人411、法人16、共同申請14の合計441経営体となつており、前年度末を上回る認定数となつてゐる。また、集落営



畜産などの担い手育成には所得の確保が重要なことから各種の支援体制がとられています(平笠・大規模酪農団地)

畜産の担い手支援については、生産性の向上による農家の所得確保が担い手育成につながるものと考えており、そのための支援体制として、市畜産担当者会議を八幡平普及センター、県中央家畜保健衛生所、新岩手農協および市で構成し、農家指導に取り組んでいる。さらに、市農業振興支援センターに3人の担い手指導員を配置し、認定農業者への経営改善相談や指導などを行っているほか、市認定農業者協議会への活動助成、国、県の補助事業や資金借り入れなどの手続き相談を行っている。市とともに、県の制度周知を行つて行く。県の制度周知を行つていく。

小野寺議員 公共牧野の新たな利用を図るべきではないか。

は123頭となり、大いに改善されているものと承知している。短角種は、17年度の206頭に対し、23年度は51頭で、比較すると25頭と低迷している。安代地区の民間牧野は放牧頭数の減少に歯止めがかかるない状況にあり、今後の運営については、牧野組合などの役員や管理者と会議を重ねながら、方向性について検討することとしている。

畜産の担い手支援策は 農家指導に鋭意取り組んでいる

だより 平成23年11月 第25号 14



一般質問

質問した事項

- ・安代老人憩の家とあずみの湯について
- ・合併特例債の延長について
- ・LED灯の実証調査について

三浦 侃 議員

あずみの湯と安代老人憩の家の将来は

市長 地域に有効な計画を早急につくる



年平均約5万人が利用する「あずみの湯」。有効利用の方策などについて計画づくりが求められます

三浦議員 あずみの湯の利用人人数と売上収益、また、安代老人憩の家の最近の利用者数と市の負担額を伺う。

市長 あずみの湯は、年平均約5万人の利用者があり、売り上げは約4000万円前後である。収益は、ここ数年170万円から500万円の赤字である。老人憩

の家の利用者実績は、ここ数年9000人前後で推移、市の負担額は年間800万円前後である。

三浦議員 あずみの湯と老人憩の家がなくなければ考えるとき、市長に方針を決めてもらわなければならぬ。将来的に、今のあずみの湯と老人憩の家をどのように残していくのか伺う。

三浦議員 あずみの湯は泉質はいいが、ポンプや配管の修理費用がかさみ、黒字にはならないできたという。私は見るが、憩の家の負担金の活用方法、憩の家の職員の雇用とバスの利用法、屋根付きゲートボール場の導入、60歳以上の入浴券の配布などの考え方、また、広い土地に畑をつくり、都会の人に無料で区画提供し、あずみの湯へ入ってもらう等々。将来の観光の問題、老人福祉の問題を縦の線でなく少し交わせながら、少しは行政の方からも案件を出して、それをもう活活性化に向けさせてほしいが、考えを伺う。

市長 どうすれば地域の皆に有効利用されるのか、方法、やり方など地域の皆に乗つてもらえるような計画を早急につくり上げていきたい。そのときには、ぜ

省エネ実践に向けて LED灯実証調査を

三浦議員 省エネエネルギーについて、現庁舎でのLED（発光ダイオード）灯の電力消費量や明るさ、執務環境への影響など、実証調査を行う時期と考えるが、どうか。

市長 LED灯による省エネリギーについては、設置経費などを勘案しながら導入に向けて進めていきたい。



一般質問

質問した事項

- ・介護保険について

高橋 悅郎 議員

高橋議員 介護保険制度が施行され12年になる。「保険料・利用料の支払いが大変だ」「施設に入所したいても入れない」など、問題を抱えながら実施されてきた。当市においても高齢化は確実に進行している。現在65歳以上の高齢者は、人口の31・2%²、人数で9101人となつており、3年前の見込みより100人はどれ多く、予想以上に進んでいる。高齢化社会に政治はどう向き合つていくのかが問われている。「保険あつて介護なし」の問題を一刻も早く解決し、高齢者が安心して暮らせる地域社会をつくることは政治の責任である。この立場で伺う。

現在、市内で、介護施設入所待機者が336人となっていて、うち、在宅での切実な待機者が101人で

高橋議員 介護度4、5の認定者だけが切実な待機者ではない。要介護と認定された方の身体状況は、基本的に一人で生活できない方たちだ。101人の在宅待機者の不足分である50床の施設整備を、来年度から事業計画に乗せるべきだ。施設整備によつて保険料に跳ね返り、高額な保険料となる。

市長 施設を増やせば保険料が引き上がる問題については、保険料を上げるのであるのか。在宅待機者については、家族の介護力など早急に必要な待機者かどうかを見て判断している。単純に判断すると、介護度4、5であれば35人ほどであるので、現在56床の施設整備中なので賄うことができると判断している。

高橋議員 介護度4、5の認定者だけが切実な待機者ではない。要介護と認定された方の身体状況は、基本的に一人で生活できない方たちだ。101人の在宅待機者の不足分である50床の施設整備を、来年度から事業計画に乗せるべきだ。施設整備によつて保険

市長

施設の整備は保険料に跳ね返る



介護施設への入所待機者が年々多くなっている今日。その解決の方策を見いだしていかなければなりません（特別養護老人ホームりんどう苑）

べきだし、国の負担を増やすように強く要望してい

くべきだ。

料が引き上がる問題については、保険料を上げるのであるのか。

ではなく、市の負担も検討す

くべきだ。

市長 いずれ制度を変えなければ介護問題は解決しない。我々の世代が介護サービスを利用するところには、制度は破綻してしまう。議員は施設を作り保険料の引き上げがつた分を国が負担するべきだと言うが、今の国にはそんな余裕はない。しかし、市としては、国の負担を増やすよう要望はしていく。

高橋議員 来年4月から改正される介護保険料をいくらと見込んでいるのか。

副市長 サービス給付費の自然増が思つたより大きい。国の負担を現在の25%から30%に増やすよう再三要望しているが、厳しい状況だ。情報を集めているが、5000円を突破するのではないかと見ている。

高橋議員 次期の介護保険料は

正される介護保険料をいくらと見込んでいるのか。

副市長 サービス給付費の自然増が思つたより大きい。国の負担を現在の25%から30%に増やすよう再三要望しているが、厳しい状況だ。情報を集めているが、5000円を突破するのではないかと見ている。

べきだし、国の負担を増やすように強く要望してい

くべきだ。

市長 いざれ制度を変えなければ介護問題は解決しない。我々の世代が介護サービスを利用するところには、制度は破綻してしまう。議員は施設を作り保険料の引き上げがつた分を国が負担するべきだと言うが、今の国にはそんな余裕はない。しかし、市としては、国の負

担を増やすよう要望はしていく。



一般質問

質問した事項

- ・合併特例債の延長について
- ・自然環境エネルギーについて

渡邊 正議員



一般質問

質問した事項

- ・第2次市行政改革前期計画について

米田 定男 議員

合併特例債延長後、用途に変更は



市建設設計画の見直しが必要

渡邊議員 合併特例債の年延長が決定した。特例債の使い道、計画などに変更があるのか伺う。

市長 本市においては、特例期間の延長に伴い、市建設設計画の変更が必要になつてくる。建設設計を基本に策定している総合計画を柱に据え、住民ニーズや社会状況の変化、財政状況を勘案しつつ、事業の必要性を十分検討しながら、市を目指す将来像「農と輝の大地」実現に向け、精査をしていくたい。

渡邊議員 124億円の特例債を使い切るのか。使うとすれば、どのように優先順位を決めていくのか。特例債よりも有利な過疎債の本市に対する割り当ては、いくらか。

財政課長 特例債については、全部使い切ることも可能ではあるが、市では全部は使えないのではないかと考えている。金額的には、ハード事業単年度で多いときには3億円を過疎債については、国から県に対して使える枠が示され、県の中で調整しながら使う形となっている。金額的には、ハード事業単年度で多いときには3億円を



過疎債などを使い整備された大更地区コミュニティセンター。今後も合併特例債や過疎債を活用した事業が実施されます

渡邊議員 原発事故を踏まえ、環境エネルギーについて、教育分野の認識を伺う。

教育長 新エネルギー導入プロジェクト事業の一環として、体験授業を実施した。太陽光発電などの教育施設への導入については、さまざまな角度から検討すべきものと考えているが、具体的な事業化については、今後、研究していきたい。

渡邊議員 教育施設へ太陽光発電導入の考えは併特例債を限りなく発行できるといった筋合いのものではない。費用対効果は大事だが、「市民生活第二」で投資していきたい。

渡邊議員 自然環境エネルギー推進の観点から「耕作放棄地40万haのうち17万haで太陽光発電を推進」と、ニュースで報道された。農地を守る農業委員会から農業者としての見解を伺う。

農業委員会会長 私個人としては、高齢化が進行していることもあり、農地の集積、面的な連携性のある農地を編成しながら、太陽光発電推進の方向で利用してもいいと思っている。



振興計画作成を一つのきつかけに

米田議員 市において地域の絆、地域の力をどう高めていくかという立場から、協働のまちづくり事業について質問する。

それは、防災や復興への取り組みの中で、安心した暮らしを支えるのは地域の絆であり、地域の力であることを再認識したからである。

そして、市の地域の力を示す一つの指標として、協働のまちづくり事業への取り組み状況に着目したものである。

この事業の平成22年度実績は、地区別に、予算に対して西根77・5%、松尾81・4%、安代98・2%である。もちろん、この事業の実績が100%であれば「地域に問題なし」ではないが、地域の一つの実態を示すものである。



地域づくりには継続して話し合う場を持つことが大切です(岩手大学教授を講師として開催された寺田地域振興協議会主催の車座研究会)

第2次行革方針では、この事業の改革方向として、作成することを掲げている。

地域ごとに地域振興計画を作成することを掲げている。

市長 市全域の振興協議会について、会議開催方法などの相談、会議に出席しての情報の提供など、地域課題の整理を進められる体制を整える。そこから、今後の地域のあり方や課題解決に向けた取り組みなどをまとめた地域振興計画を作成できるように進めていく。

いずれにしても、地域の皆さんに負担を感じることのないよう、検討を重ねていきたい。

話合いの継続必要

米田議員 例えば、西根地区は77・5%の実績だが、その原因や地域の実態などについて、市当局として組

市当局として、この事業の22年度実績をどう評価しているのか、また、行革方針への取り組み状況を伺う。

しかし、地域づくりなどについて、住民は多くの意見を持っており、いわば潜在力はあると考える。問題は地域づくりなどについて継続して話し合う場をつくる場合もある。

そのきっかけとして、地域振興計画の作成というのは困難な場合もあるので、とりあえずは、協働による地域振興計画の作成と、検討・実施からスタートといふこともある。その場合でも、短期ではなく、将来の発展を考えた継続性が必要である。

副市長 いきなり振興計画の作成という大きな課題では困難な場合があるので、とりあえずは、協働による地域振興計画の作成と、検討・実施からスタートといふこともある。その場合でも、短期ではなく、将来の発展を考えた継続性が必要である。

教育民生常任委員会

小野寺昭一(委員長)、遠藤公雄(副委員長)、
高橋 守、古川津好、工藤 剛、渡辺義光、立花安文

○自然はみんなのエネルギー

「自然はみんなのエネルギー」
考となる事例であった。

○山形県庄内町
課題も含めて大いに参考になる事
例であった。



◎秋田県にかほ市
出生数が年々低下し、核家族化が進んでいるのは全国的な動向であるが、にかほ市については、TDKの工場が存在することにより、女性の就労が全国平均を大きく上回るといった地域的な特徴がある。そのため、「働くお母さん」が多く、特に低年齢児を主体に保育所の需要が増加している。適正な定員による保育環境の整備が望まれていることから、幼保連携型の認定こども園が設置されたといった背景があった。

「保育に欠ける子」と「保育に欠けない子」を区分して保育しており、保護者は状況に応じて選択して預けることができるといった利点がある。また、運営経費の面においても改善が図られたとのことであった。

当市においても民間の指定管理と併せて、今後の子育て支援の参考となる事例であった。

先進的な庄内町の取り組みは、
とおりで、大いに参考になる事
例であった。

省エネチャレンジで意識が向上

・期日……8月22日～23日
・研修先（研修内容）……秋田県にかほ市（幼保一元化について）、山形県庄内町ウインドーム立川（新エネルギー対策について）

ハウス施設栽培で高収益を確保

・期日……8月23日～24日
・研修先（研修内容）……北海道八雲町（農業振興施設について）、活性化施設・町民農園の視察）、登別市（商工業について）

産業建設常任委員会

工藤直道(委員長)、高橋喜代春(副委員長)、高橋光幸、
北口和男、大和田順一、松浦博幸、小笠原壽男、大森力男



北海道八雲町役場（8月23日）

意

◎北海道八雲町
いきいき元気な田園タウン」を町の合言葉として、持続可能なエネルギーの自給自足と資源循環型社会の形成を目指し、風力発電など、さまざまな新エネルギーの対策を積極的に行っていた。また、廃食用油のリサイクル事業や小・中学校の省エネチャレンジ事業などは、町民の意識の向上を図っている点でも注目する活動であった。

ハウス施設栽培で高収益を確保

・期日……8月23日～24日
・研修先（研修内容）……北海道八雲町（農業振興施設について）、活性化施設・町民農園の視察）、登別市（商工業について）

省エネチャレンジで意識が向上

・期日……8月22日～23日
・研修先（研修内容）……秋田県にかほ市（幼保一元化について）、山形県庄内町ウインドーム立川（新エネルギー対策について）



北海道八雲町役場（8月23日）

意

◎北海道八雲町
花き、野菜など農業振興の取り組みは、水稻の補完作物として、冷涼な気候条件を生かし、小面積のハウス施設で厳選な自己選別を行い、品質の良い生産物を出荷し、高収益を上げていく経営方法であった。特に、花きは、11戸の農家で年間4556万円、軟白ネギは21戸で2億5653万円の生産額となつておらず、施設栽培の利点を最大限活用した取り組みであった。また、町の気候条件に合う馬鈴薯（ばれいしょ）の栽培が図られていた。

ハウス施設栽培で高収益を確保

・期日……8月23日～24日
・研修先（研修内容）……北海道八雲町（農業振興施設について）、活性化施設・町民農園の視察）、登別市（商工業について）

省エネチャレンジで意識が向上

・期日……8月22日～23日
・研修先（研修内容）……秋田県にかほ市（幼保一元化について）、山形県庄内町ウインドーム立川（新エネルギー対策について）

ハウス施設栽培で高収益を確保

・期日……8月23日～24日
・研修先（研修内容）……北海道八雲町（農業振興施設について）、活性化施設・町民農園の視察）、登別市（商工業について）



北海道八雲町役場（8月23日）

意

◎北海道八雲町
花き、野菜など農業振興の取り組みは、水稻の補完作物として、冷涼な気候条件を生かし、小面積のハウス施設で厳選な自己選別を行い、品質の良い生産物を出荷し、高収益を上げていく経営方法であった。特に、花きは、11戸の農家で年間4556万円、軟白ネギは21戸で2億5653万円の生産額となつておらず、施設栽培の利点を最大限活用した取り組みであった。また、町の気候条件に合う馬鈴薯（ばれいしょ）の栽培が図られていた。

ハウス施設栽培で高収益を確保

・期日……8月23日～24日
・研修先（研修内容）……北海道八雲町（農業振興施設について）、活性化施設・町民農園の視察）、登別市（商工業について）

省エネチャレンジで意識が向上

・期日……8月22日～23日
・研修先（研修内容）……秋田県にかほ市（幼保一元化について）、山形県庄内町ウインドーム立川（新エネルギー対策について）

ハウス施設栽培で高収益を確保

・期日……8月23日～24日
・研修先（研修内容）……北海道八雲町（農業振興施設について）、活性化施設・町民農園の視察）、登別市（商工業について）



北海道八雲町役場（8月23日）

意

◎北海道八雲町
花き、野菜など農業振興の取り組みは、水稻の補完作物として、冷涼な気候条件を生かし、小面積のハウス施設で厳選な自己選別を行い、品質の良い生産物を出荷し、高収益を上げていく経営方法であった。特に、花きは、11戸の農家で年間4556万円、軟白ネギは21戸で2億5653万円の生産額となつておらず、施設栽培の利点を最大限活用した取り組みであった。また、町の気候条件に合う馬鈴薯（ばれいしょ）の栽培が図られていた。

ハウス施設栽培で高収益を確保

・期日……8月23日～24日
・研修先（研修内容）……北海道八雲町（農業振興施設について）、活性化施設・町民農園の視察）、登別市（商工業について）

省エネチャレンジで意識が向上

・期日……8月22日～23日
・研修先（研修内容）……秋田県にかほ市（幼保一元化について）、山形県庄内町ウインドーム立川（新エネルギー対策について）

ハウス施設栽培で高収益を確保

・期日……8月23日～24日
・研修先（研修内容）……北海道八雲町（農業振興施設について）、活性化施設・町民農園の視察）、登別市（商工業について）



北海道八雲町役場（8月23日）

意

◎北海道八雲町
花き、野菜など農業振興の取り組みは、水稻の補完作物として、冷涼な気候条件を生かし、小面積のハウス施設で厳選な自己選別を行い、品質の良い生産物を出荷し、高収益を上げていく経営方法であった。特に、花きは、11戸の農家で年間4556万円、軟白ネギは21戸で2億5653万円の生産額となつておらず、施設栽培の利点を最大限活用した取り組みであった。また、町の気候条件に合う馬鈴薯（ばれいしょ）の栽培が図られていた。

ハウス施設栽培で高収益を確保

・期日……8月23日～24日
・研修先（研修内容）……北海道八雲町（農業振興施設について）、活性化施設・町民農園の視察）、登別市（商工業について）

省エネチャレンジで意識が向上

・期日……8月22日～23日
・研修先（研修内容）……秋田県にかほ市（幼保一元化について）、山形県庄内町ウインドーム立川（新エネルギー対策について）

ハウス施設栽培で高収益を確保

・期日……8月23日～24日
・研修先（研修内容）……北海道八雲町（農業振興施設について）、活性化施設・町民農園の視察）、登別市（商工業について）



北海道八雲町役場（8月23日）

意

◎北海道八雲町
花き、野菜など農業振興の取り組みは、水稻の補完作物として、冷涼な気候条件を生かし、小面積のハウス施設で厳選な自己選別を行い、品質の良い生産物を出荷し、高収益を上げていく経営方法であった。特に、花きは、11戸の農家で年間4556万円、軟白ネギは21戸で2億5653万円の生産額となつておらず、施設栽培の利点を最大限活用した取り組みであった。また、町の気候条件に合う馬鈴薯（ばれいしょ）の栽培が図られていた。

ハウス施設栽培で高収益を確保

・期日……8月23日～24日
・研修先（研修内容）……北海道八雲町（農業振興施設について）、活性化施設・町民農園の視察）、登別市（商工業について）

ハウス施設栽培で高収益を確保

・期日……8月22日～23日
・研修先（研修内容）……秋田県にかほ市（幼保一元化について）、山形県庄内町ウインドーム立川（新エネルギー対策について）



横間虫追い祭り（7月18日、安代地区横間）

先人から受け継ぐ(6)

横間虫追い祭り

横間のわら人形は、県北部から青森県の下北半島へ分布域をもつ「虫送り」のわら人形で、角のある鬼の形が特徴である。虫追い祭りは、天明3年（1785年）の飢餓で集落の人々が大変困り果てていた時、法眼という山伏が「五穀豊穣」と「悪病退散虫追い」を祈願したのが始まりとされており、200年以上にわたって

続いている行事である。

行列は、旗を持った人を先頭に男人形、女人形の順で、かねや太鼓の音に合わせ「五穀豊穣、稻虫はらえ、豊作祭りやー」と唱えながら歩く。

○保存会代表 畠山亀五郎さん

○市無形民俗文化財の指定 平成3年11月12日（旧安代町指定）



秋も深まり、八幡平の紅葉が見ごろになつた10月9日（日）、安代地区で4年に一度の10地区対抗の大運動会が開催されました。幸い天候に恵まれ、小学生から高齢者まで約800人が参加し、楽しい一日を過ごしました。

年代別にさまざまな競技種目があるものの、絶好の稻刈り日和のため、中壮年世代の参加が思わずなく、その世代の代わりに活躍してくれたのが高齢者世代です。昼休み時間には、恒例の盆踊りの披露がありました。この盆踊りは旧荒沢村側がナニヤトラヤ、旧田山村側はぶつこみといい、重くて大きな太鼓をたたく迫力ある踊りです。運動会では、この盆踊りを見るのが楽しみな方も多く、安代地区が一つにまとまるイベントであり、これからも長く続くことを願っています。

議会広報特別委員会
委員長 伊藤一彦
副委員長 渡邊正
委員 大森力男
立花安文
三浦侃
高橋悦郎



やすひみ
立花安文

あ
と
が
き